



当日のプログラム（第4章 第2回国公立大学フォーラム：「地域歴史文化の保全・継承と広域災害に備えた大学間ネットワークの形成のために」）

坂江, 渉

(Citation)

地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備, 特別研究プロジェクト(平成24年度最終事業報告書):23-23

(Issue Date)

2013-03-31

(Resource Type)

research report

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005286>



第4章

第2回国公立大学フォーラム

「地域歴史文化の保全・継承と広域災害に備えた大学間ネットワークの形成のために」

人文学研究科は、2013年2月3日、各地の国公立大学の関係者を招き、本事業の成果と課題を報告するとともに、地域文化に対し国公立大学が果たすべき役割を議論すべく、第2回国公立大学フォーラム「地域歴史文化の保全・継承と広域災害に備えた大学間ネットワークの形成のために」を開催した。

このフォーラムでは、本事業の責任者の奥村弘が主旨説明をおこない、まず担当教員の板垣貴志と村井良介が、神戸大学での3年間の取り組み（本事業の中身）の成果と課題について報告した。その後、佐賀朝氏（大阪市立大学）・今津勝紀氏（岡山大学）・伊藤昭弘氏（佐賀大学）・佐藤大介氏（東北大学）・齋藤瑞穂氏（新潟大学）・藤本清二郎氏（和歌山大学）が各大学での取り組みを紹介し、最後に文化庁の宇田川滋正氏が全体講評をおこなった。

討論では、災害から歴史資料を守るためには日頃からのケアが不可欠で、その為に歴史資料が置かれている状況把握を各大学が如何に進めたらよいか、また市民の理解を得るための方策をどうすすめるか、博物館の学芸員の養成の問題も含め大学における人材育成にとって何が必要となるか、などの点について議論された。また最後に関連する大学が、今後も前回フォーラムで設立された「地域文化大学連絡会」を維持しつつ、情報交換を取り合い、広域自然災害に備えていくことが承認された。また当日の感想用紙には、「良い取り組みであった。さらに継続が必要だろう」「国公立大学間で状況のあり方はいろいろあるから、その差をどう考え、どう埋めていくかの課題はあるように思う。まったく歴史系の教員や学生がいない大学の状況の話を最後にきいてその思いが強まった」などの意見が出された。

参加者は、各地の大学関係者(13大学)のほか、県内外の自治体・大学関係者や市民など、合わせて23機関30名だった。開催場所は神戸大学瀧川記念学術交流会館で、兵庫県教育委員会の後援をえて、午前11時から休憩をはさみ午後3時まで開かれた。また本フォーラムは、兵庫県内の自治体・市民団体・大学関係者の3者でつくる、第5回地域歴史文化連携コンソーシアムとしても開催された。

以下、当日の報告と討論について、各報告者からの報告要旨原稿と、テープ起こし原稿等にもとづいて紹介する。なお司会は人文学研究科教員の坂江渉がつとめた（以下、敬称を略した箇所がある）。
(文責・坂江渉)